

## 2. 基本方針

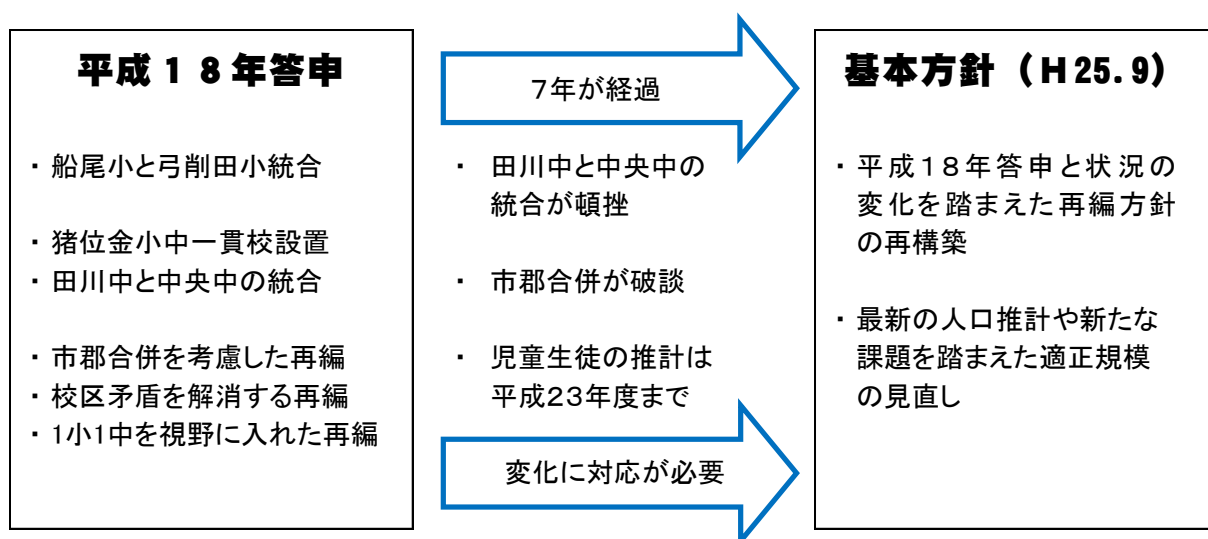
### 田川市立学校 校区再編基本方針とは

田川市教育委員会が、小規模校が抱える課題を解消するために、これから進める学校の適正規模化について、基本的な方針を定めたものです。

### 基本方針の位置づけ（H18年答申との関係）

小規模校が抱える教育環境の課題は、平成18年答申の時と変わっていません。しかし、その解消は、答申が掲げた手法では実現できない状況となっています。

基本方針は、平成18年答申が求めた理念をもとに、市教委の方向性を再構築したものです。



### 基本方針の概略

基本方針は、主に以下のような方向性を定めています。

- ・ 今回策定する計画は、中学校のみを対象とする
- ・ 小学校は検討を継続する（今回は対象としない）
- ・ 中学校再編は、将来の小学校区再編に不都合が生じないように配慮する

また、望ましい適正規模を以下のように定めています

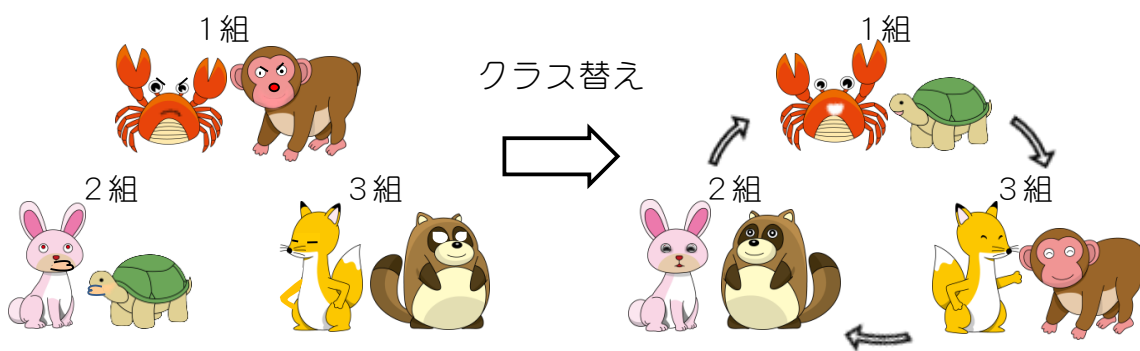
- 中学校の適正規模 ⇒ 1 学年 3 学級以上、かつ 3 学年 9 学級以上
- 中学校数 ⇒ 2 中学校あるいは 3 中学校の形を基本とする（猪位金は除く）
- 猪位金小中一貫校 ⇒ 再編計画策定の中で校区の線引きなどを検討する  
(猪位金学園（中学校）は適正規模ではないため対策が必要)

[Question] 1 学年 3 学級以上 3 学年 9 学級以上 が望ましい



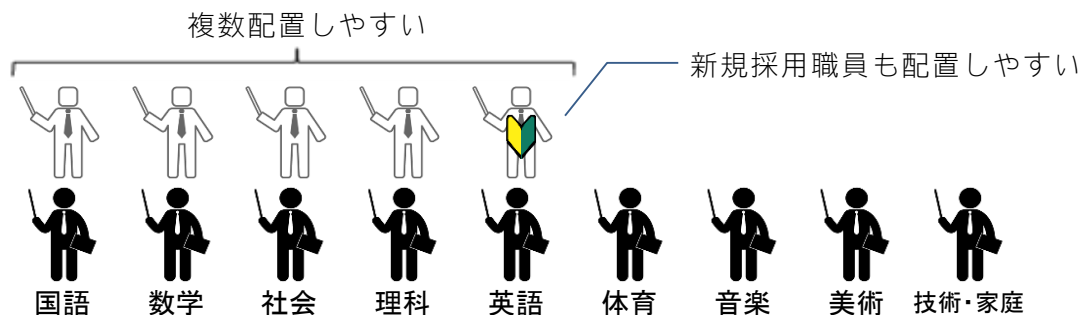
クラス編成が可能になる



クラス替えが可能になると、新しい仲間との出会いが増えます。また、いじめや学級崩壊への対応がしやすくなります。



国・数・社・理・英の 5 教科に教職員を複数配置しやすい

標準学級数が 9 学級の場合、教職員の定数配置が 14 人になります。そうすると国・数・社・理・英の 5 教科に教職員を複数配置しやすくなります。複数配置になると新規採用教職員も充てやすくなります。



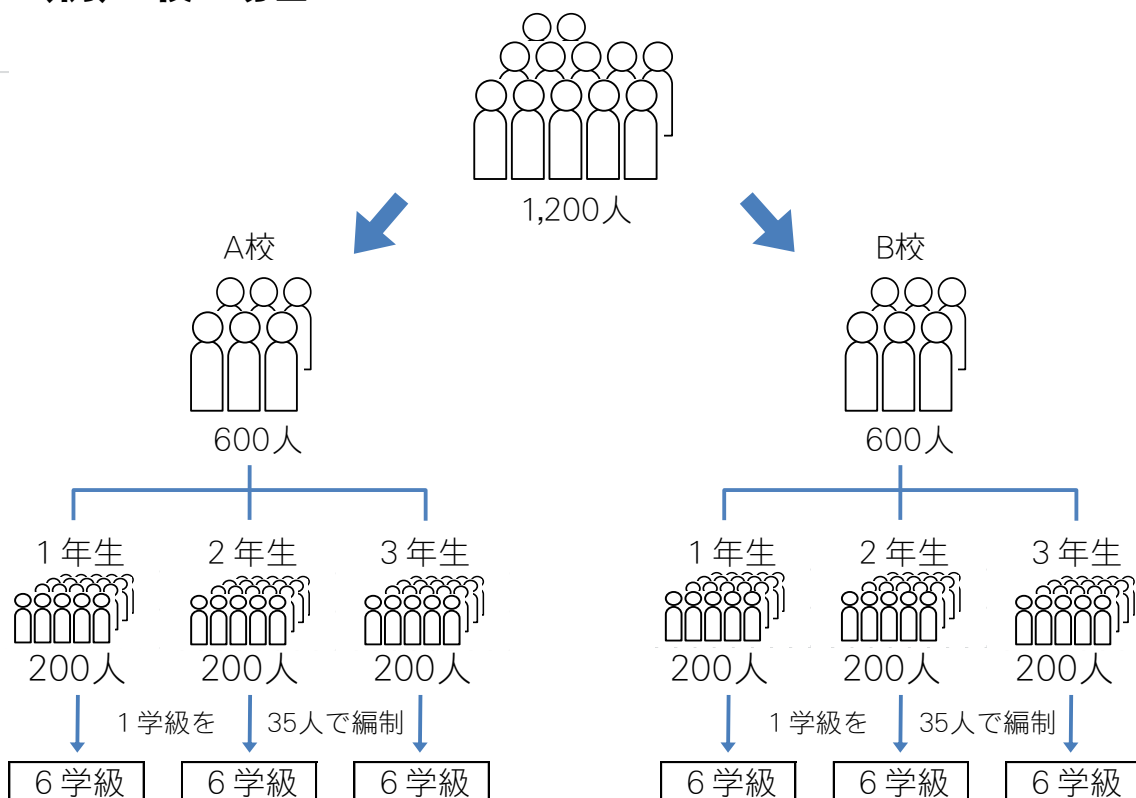
[Question] 2校? 3校? どちら  

基本方針が「2中学校または3中学校を基本とする」とした根拠

田川市の中学生の数（1,200人）を、単純に学校数で割って得られる学級数から再編の最低ラインを示したものです。

**(例) 2校の場合**

田川市の中学生



この考え方でいくと…

学校数	1校の生徒数	1学年の生徒数	1学年の学級数	1校の学級数
1校	1,200人	400人	12クラス	36クラス
2校	600人	200人	6クラス	18クラス
3校	400人	133人	4クラス	12クラス
4校	300人	100人	3クラス	9クラス

基本方針では、この単純試算を基に

- ① 1校では、過大規模校（31クラス以上）となる。
  - ② 4校では（現時点で1学年3学級、3学年9学級を満たしているが）、今後の人口減少で適正な規模が保てなくなる恐れが大きい。
- ことを理由に「2中学校あるいは3中学校を基本とする」としています。

ただし、この段階では、実際の校区分けの方法などを検討していません。次の段階（計画の策定方針）で、目的を果たすことができるのは、2校であるか3校であるかを検討し、基本方針の考え方を具体化しています。



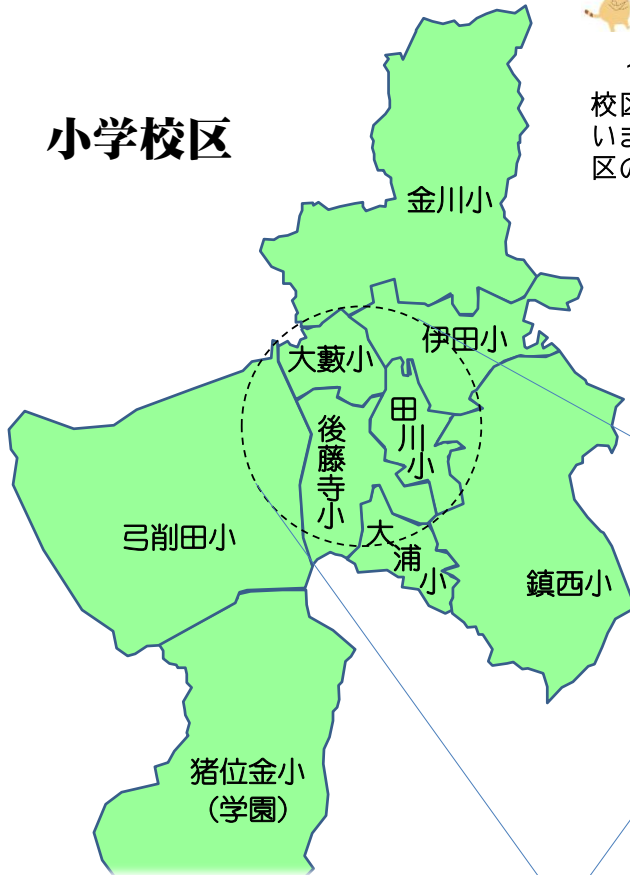
[ Point Check ]

### 校区矛盾はどこにある？



1 小学校から 2 中学校（別々の中学校）に通う校区矛盾は、田川小校区と後藤寺小校区で生じています。校区矛盾は、小学校区の敷地内を中学校区の境界線が横切っているために生じます。

## 小学校区



#### 松原 1 区（田川小校区）

小学校は田川小、中学校は田川中へ通います。（田川小校区内にある中央中学校へは通いません）



## 中学校区



#### 平松町1～8番、中央町1～11番 高住町（後藤寺小校区）

小学校は後藤寺小、中学校は中央中へ通います。（後藤寺小校区内にある後藤寺中学校へは通いません）